

玉縄城 まちだより

発行者：玉縄城址まちづくり会議 荒井章 TEL&FAX 0467-45-7411
http://www48.tok2.com/home/tamanawajyo



この計画は玉縄ふるさと館の活用、玉縄学習センターの展示、さらにアカデミア文化事業も含む文化事業の推進を内容にしています。

市民緑地の実施計画進む

玉縄城を偲ぶ史跡「太鼓やぐら跡」を鎌倉市の市民緑地にする実施計画が決定しました。市民緑地は、「地域の

人々が利用できる緑地」として市が取り入れた制度で、地権者と市が契約を結び市民に公開されます。これによって龍寶寺の玉縄ふるさと館、七曲坂市道、市道脇の民有地広場、太鼓やぐら跡、大手門跡、陣屋坂と続く玉縄城を偲ぶコースの整備が一挙に進むことになり

まちづくり5年目の春 玉縄城を偲ぶコース 整備進む

七曲坂市道が一新される

平成19年から美化奉仕を行い、鎌倉市に働きかけてきた歴史の道七曲坂の改修整備が始まります。危険で通れなかつた七曲坂から散策を楽しみ、生活道路としても相応しい七曲坂へ、改修デザインを市担当と当会で進め9月頃までに工事完了する予定です。

ふるさと館のあらたな調印

当会は玉縄民俗資料館のリニューアル事業を進め、国指定重文の旧石井家住宅と併せて玉縄ふるさと館としました。

この実績の上に玉縄の生涯学習の場として、市と龍寶寺と当会が協力し活用を計る取り決めの調印を行います。

明日の玉縄へ市長申入れ

4月5日、市長と懇談。市民行政の協働をさらに充実させることで合意しました。



本年度事業計画出揃う

4月23日、当会は新年度に向け、第5回総会を開催。新しいまちづくりに挑戦する活動方針と事業計画を発表しました。メイン4事業には各々意欲的な計画が追加されています。

城址公園化では市民緑地、市道改修。500年祭ではキャラクター開発。アカデミアでは日本城郭史学会とのセミナー共催など多彩な計画です。

市との協働によるまちづくりが一步一步進んでいます。

活動への参加広がる

玉縄の長期的なまちづくりを視野に、次の市民緑地のこと、次の文化事業のこと、500年祭後25年からの暦年祭のこと、鎌倉国宝館展示企画などを語り合い理解を深めました。

鎌倉市外からの参加者の輪も広がっています。今話題の玉縄北条氏を主人公とする「戦国鎌倉悲譚 剋」の作家、伊東潤さんも賛同者で会員の一人です。内外を問わず多様な視点から玉縄の活性化をめざしています。皆様、ぜひ活動にご参加ください。あなたの一汗が玉縄を変えます。

「玉縄城址まちづくり会議」の活動

2010年(平成22年)11月～

<城址公園化事業>

- ・偲ぶ広場：市長、副市長と偲ぶ広場について協議
→市民緑地決定
- ・七曲坂整備：玉縄祭りで苗の販売
- ・市道デザイン：設計開始
- ・鎌倉アダプト・プログラム
年間12回 147名参加

<玉縄ふるさと館事業>

- ・玉縄民俗資料館リニューアル事業
展示品目録整備、展示演出作業
旧石井家住宅：民具の展示、清掃
年間15回120名参加
- ・「玉縄ふるさと館」内覧会を経て
学童、市民見学者多数来館

<アカデミア文化事業>

- ・連続セミナー
第7回「ここまで分った！玉縄城」
「ここを知りたい！玉縄城」
第8回「玉縄北条氏の文化活動」
北条氏繁の『寝茶の湯』を中心に
シンポ「後北条氏と武家の文化」
- ・シンボルづくり
縄張り測量6回
城域立体地図制作（活動中）
- ・学習センター郷土資料コーナー
「大船駅今昔」

<玉縄城築城500年祭>

- ・事業担当部会として8事業の提案
- ・キャラクター企画

<企画広報担当事業>

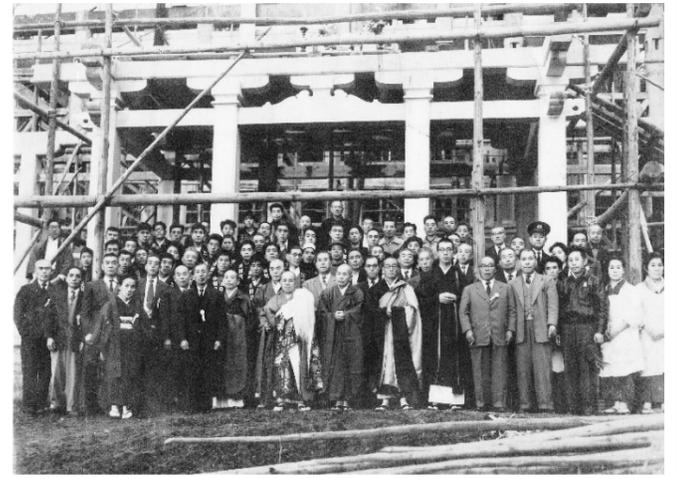
- ・市との協働事業推進
- ・玉縄城下歴史探索会(渡内方面)
- ・広報紙「玉縄城 まちだより」7号



七曲坂の野草②「キラソウ」

春の彼岸の頃、日当たりのよい斜面地に、ロゼット状の葉に淡紫色の小花が密集して咲いています。(別名をジゴクノカマノフタ)

玉縄思い出写真館



龍寶寺本堂 上棟式
昭和三十三年(1958)十二月撮影

【ひと言】

昭和二十六年(1951)四月に龍寶寺本堂や庫裏が全焼しました。詳しい出火原因は判りませんが、檀家や地元の人達は大きな打撃をうけました。しかし、土地の名利を失ったままにしておくわけにはいかず、檀家を中心に建築費用の捻出に奔走し、寺域の一部売却を含めて再建となりました。

昭和三十三年(1958)十二月末には本堂の上棟式を祝うことができました。この写真はその時のものです。

(城廻・打越の福田秀雄様から借用しました)

玉縄歴史探索ガイド講座

500年祭を前に、玉縄の歴史と自然を学び、市民ガイドになりましょう。2回講座。

□5月1日(日)9:30

玉縄ふるさと館に集合。座学の後、玉縄城を偲ぶコースを探索し、陣屋坂上で12:00頃解散

□参加費 資料代共500円

鎌倉市民活動の日

フェスティバル

□5月20日(金)12:22日(日)

□玉縄検定クイズ「歴史篇」

□5月22日(日)14:00

□鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉)地下ギャラリー

▽問い合わせはすべて企画総務 荒井まで:0467-45-7411

玉縄歴史アカデミア

第9回連続セミナー

□「谷戸谷戸の重要な屋敷、遺構の役割とは？」

斎木秀雄氏(NPO法人鎌倉考古学研究所理事)

□「平成縄張り測量報告」

大竹正芳氏(日本画家)

対談:伊藤一美氏を囲んで

□6月12日(日)

13:30~16:30

□玉縄学習センター3階

第10回連続セミナー予告

□玉縄城の遺構検証と見学会

西ヶ谷恭弘氏(日本城郭史学会会長)

□10月1日(土)

□清泉女学院 階段教室



『戦国鎌倉悲譚 剋』
伊東 潤

八年ほど前、関内の有隣堂を散策しているとき、一冊の本に出会った。それが『太平寺滅亡 - 鎌倉尼五山秘話』(有隣新書 三山進)であった。本書は青岳尼という尼僧の生涯を追いつつ、同時進行的に自らの人生の迷いを綴るといふ、単なる歴史研究本の域を脱した名著であった。

天文三年(1534)、房総里見家で内訌が起こり、北条家の支援を受けた庶家の義堯が嫡流の義豊を滅ぼし、家督を奪った。しかし義堯は、手の平を返すように北条家と絶縁し、北条家の支援する古河公方と対立していた小弓公方・足利義明と結んだ。その同盟の証として、義堯の嫡男・義弘と義明の長女・青岳尼の婚約が発表された。

この作品は、玉縄城と東慶寺を主な舞台としているが、現代ではなかなか味わえない戦国時代の空気をいかに再現するかに苦心したので、そのあたりに興味がある方は、ぜひお手に取っていただきたい。

戦国時代の鎌倉という独特の空間を舞台に繰り広げられる相剋の物語を、とくとく賞味あれ。

(時代小説家)

東北の皆さんと手をつなぎましょう 玉縄城址まちづくり会議

ところが、天文六年(1537)の国府台合戦で、北条家の前に小弓公方・里見両勢は敗れ、義明は敗死、小弓公方家は滅亡した。この時、青岳尼は北条家に捕らえられ、鎌倉太平寺の住持に据えられた。

しかし弘治二年(1556)、三浦半島に上陸した里見水軍は、鎌倉まで攻め寄せた。実は、義弘の狙いは鎌倉を占拠することになく、青岳尼の奪還にあった。しかも、青岳尼もそれを望んでいた。その後、二人は手を携えて房総に逃れ、仲睦まじい夫婦となった。

以上が青岳尼伝説である。

この話をベースに、物語の中心を次世代に置き、青岳尼の娘である青蓮尼と、玉縄北条家当主・北条氏舜との悲恋を描いたのが、『戦国鎌倉悲譚 剋』である。

この龍達和尚(了達の説あり)が、氏勝と師弟の間柄でもあり、三郎左衛門はこの龍達和尚に相談し、氏勝を説得したという説である。ところが曹洞宗龍寶寺は、玉縄城開城の三十五年後の寛永二年(1625)八月に寺号変更し現在地に移転したのであり、開城時点では玉縄・山居の地に大応寺として存在していた。この寛永二年七月には、徳川家光より松平正綱が玉縄領二万二千二百石を拝領し、大名として玉縄に陣屋を構えている。この説に基づき玉縄城開城八十二年後の寛文十二年(1672)九月に江戸神田鍛冶町・木屋作兵衛により出版された軍記物語「北条盛衰記」

歴史シリーズ 8 玉縄城主 北条氏勝

を増補・改訂したものが、その後の天明三年(1783)三月に刊行された「北条五代実記」「小田原北条記」などの軍記物語の根拠になっている。

一方、鎌倉市岩瀬にある玉縄城三代城主北条綱成開基の「亀鏡山護国院大長寺(綱成夫人の大頂院や、四代城主氏繁夫人の七曲殿他一族の墓所あり)」由緒書御調文書によると、氏勝が不戦開城を決定した際には、次のようなことが根拠にある。

徳川家康(大長寺文書では東照宮様とある)は、徳川家菩提寺・三河岡崎の大樹寺(松平家代々の墓所)であり、家康の父松平広忠の墓所もある(の住職登善上人の話から、相州玉縄北条氏鎮護国家祈願所であり、菩提寺でもある浄土宗龜鏡山護国院大頂寺(現在の長寺)四世住職源榮上人の存在を知る。源榮上人は徳川家檀縁の浄土宗観智国師の弟子にして俊才の学匠であると聞いたことから、本多忠勝を通じて家康の氏勝説得の内命が下った。

(以下次号に続く)

インタビュー～玉縄万華鏡～

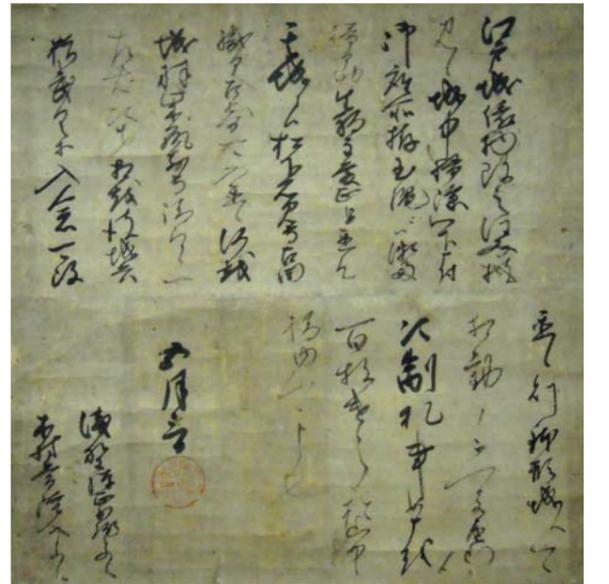
玉縄城明け渡しの際の「秀吉の朱印状」拝見

北條 和子さん
(旧姓 富岡)
(ほうじょう かずこさん・岡本)

富岡家では玉縄城に関する豊臣秀吉の朱印状を所蔵されているとお聞きしましたが



私の母、富岡梅は、播州龍野藩の藩主であった脇坂家から、大船軒3代目の父のもとに嫁いできました。戦前のことだったので、戦後になって改めて実家の伯父が何か嫁入りの持参品を持たせようと、最初は「徳川家康の掛け軸」を贈ってきたそうです。ところが父と母は立派過ぎるものとして返し、代わりに地味なものとして贈られてきたのが、伯父曰く「秀吉の手紙やけど」とされたこの朱印状でした。



嫁ぎ先の玉縄(大船)ゆかりの品として贈られてきたのですかー

その意識は無かったようです。当時母はたまたま玉縄城の歴史を勉強中だったので、朱印状の中に「玉縄」の文字があることを見つけ、市の教育委員会に見せたそうです。そうして玉縄城明け渡しの際の朱印状であると判明したのです。

そもそもこの朱印状は、玉縄城を攻めてきた秀吉軍の浅野長吉(後の長政)と木村常陸介あてに出されたものでしたが、その後、播州赤穂の浅野家に伝わっていたと思われま

江戸城俵物改之注文披見候、城中掃除以下申付御座所拵、玉縄二八瀬多掃部助・生駒主殿正を置候て(中略)

五月三日(秀吉朱印)

浅野弾正少弼とのへ木村常陸介とのへ

とあり、小田原城を包囲する本営にいた秀吉が、南関東方面の攻略に向かう軍勢に対して、無血開城した玉縄城の戦後処理として、守衛に瀬田正忠や生駒忠清を置くことを指示している。

ところが、忠臣蔵で有名な浅野内匠頭による吉良上野介への刃傷事件が起き、赤穂浅野家は改易となりました。その時、赤穂城受け取りの正使として赴いたのが、隣藩である播州龍野藩主の脇坂淡路守で、その時にこの朱印状も脇坂家の手に渡ることとなり、その後代々伝えられてきたのです。

巡り巡って、玉縄城築城500年を迎える今日は、玉縄の地の富岡の家で所蔵しているなんて、本当に不思議な縁ですね。

(インタビュー)

玉縄ふるさと館 探訪ノートから

- ☆本丸は今女学校 夏さかん
- ☆学校の宿題が出来ました。
- ☆玉縄城の絵など、もつと分かる資料があるといひ。
- ☆玉縄城跡の位置はわかったが、何とか城跡を自由に見たい。市の対応を待つ。
- ☆静かな山寺、秋天下心和む日となりました。(世田谷)

《玉縄ふるさと館》案内

団体見学申し込みは当会へ
0467-4517411

氏勝公没後四百年恩忌

玉縄北条氏最後の城主北条氏勝公が、千葉県佐倉市の岩富城主として生涯を送った後、菩提寺の寶金剛寺に葬られて今年四百年になります。三月二十六日に、同寺で盛大な四百年恩(遠)忌が行われ、玉縄からも代表が参列しました。

